

牛群検定通信 No60

◇ 5月から未経産牛の表記が一部変更となります ◇

未経産牛については、以前は「牛群検定は分娩してから加入する」という方が多かったのですが、現在は「未経産牛の時から牛群検定に加入させる」という方が増えてきています。そこで、5月から未経産牛のデータ活用が行いやすいように、一部表記を変更しますので、その内容をお知らせします。

【1】 未経産牛に検定日時点の年齢および日齢を表示

成績表の右上の端にご自分の成績表の様式が表記されています。

①様式AとB 未経産牛

- ・ 個体検定日成績（2枚目）

「分娩年月日」「搾乳または乾乳日数」の欄に、「年齢」「日齢」をそれぞれ表示します。

- ・ 個体累計成績

「分娩時年齢」の欄に、「年齢」を表示します。

②様式C 未経産牛

- ・ 「分娩又は乾乳」欄の「年齢」欄に、「年齢」を表示します。

- ・ 授精報告のない未経産牛についても表示します。

なお、いずれの場合も、文字を細くして印字しますので、経産牛と区別が容易にできます。

【2】 未経産牛の年齢、日齢の活用

年齢、日齢が表示されることで、授精適期と言われている13～15カ月齢ごろを基点に授精が順調に進んでいるか容易に繁殖チェックすることができます。

また、未経産牛の授精は日齢だけでなく、発育をチェックすることが肝要です。体高125～130cm、体重350～400kgが目安といわれています。年齢、日齢の表示により、順調な発育をしているかといったこともチェックしやすくなります。

【3】 未経産牛の早期検定加入

冒頭で申し上げたとおり、未経産牛の牛群検定加入は着実に増えてきています。牛群検定には生まれて直ぐにでも検定加入することが出来、検定費用も無料ですので是非ご利用下さい。初回授精と同時期に検定加入させるという方もいらっしゃいますが、前述のような検定成績表の活用を行うためには、もっと早期（授精の始まる前）に検定に加入する必要があります。

また、現在、注目されているゲノミック評価を行う場合にも、早期の未経産牛加入が必須となります。